

手話でいきる子どもの児童発達支援・放課後等デイサービス

あ~とん塾

2017年9月1日～2018年3月（現在）

事業報告書

●開業までの経緯

「手話でいきる」聴覚障害児（以下、ろう児）が安心して過ごせる居場所は少ない。

一方、きこえる子どもたちが当たり前アクセスできる社会資源。例えば保育園・幼稚園、学童、学習塾など。そこは放課後の居場所、親子同士の交流、学習補助、仕事中の預かりなど、あらゆる面でその家庭をサポートしている。

しかし、これらの当り前の社会資源にろう児はアクセスできずにいる現状。手軽に利用できない最も大きな理由は「**手話**」があるかどうかで判断するためである。

仮に利用できたとしても友達同士の会話や大人からの発信は「音声」なので、十分に情報が得られず苦しい思いをするろう児が後をたたない。そうでなければ保護者が続けたいであろう仕事を断念して何時も子どもと付き添うか、放課後ひとり家に帰って留守番をするか。

きこえる子どもの家庭にとっての「当たり前」が**ろう児のいる家庭では当たり前ではない**。

こうした状況下、昨年9月にろう児に特化した「手話でいきる子どもの児童発達支援・放課後等デイサービス **あ~とん塾**」が誕生した。第一言語の手話がある環境、友達や大人と手話で会話できる環境、自分と同じ立場の大人（ロールモデル）と会える環境。そうした子どもにとって「当たり前」の環境がそこにはある。



[手話でいきる子どものあ~とん塾HP](#)



●事業形態

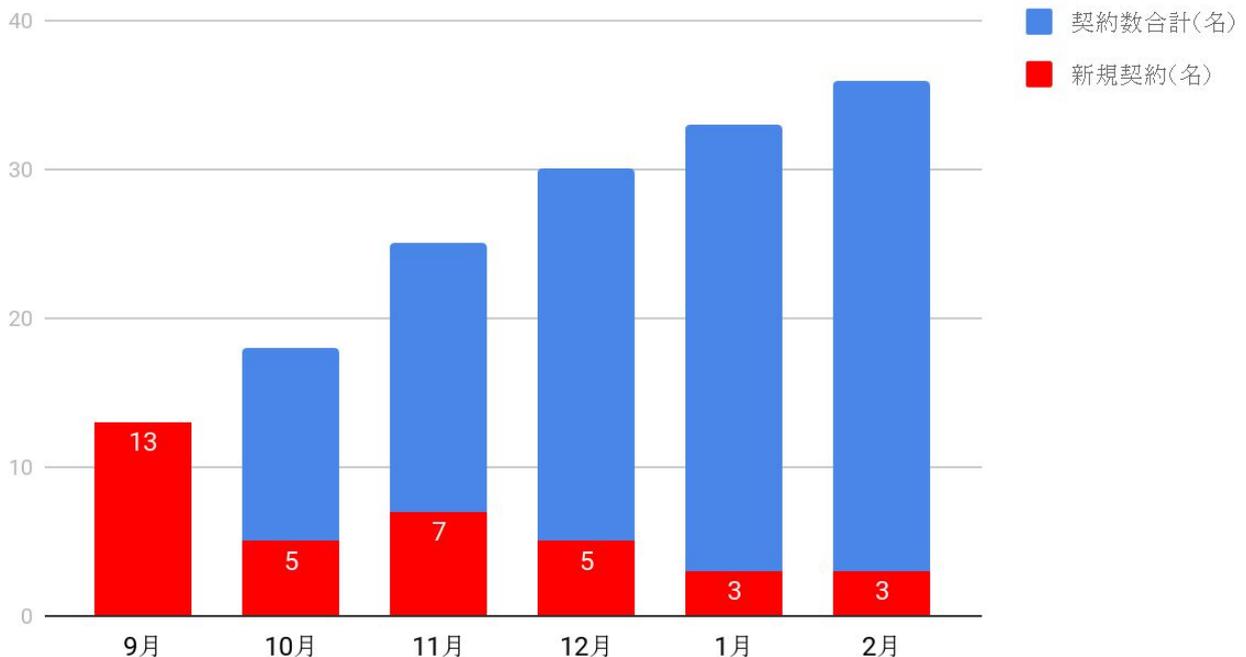
- ・児童発達支援および放課後等デイサービスの多機能型事業所
- ・コンセプト：0歳から18歳までの手話でいきいきこえない・きこえにくい子が手話者クルー（あ〜とん塾でのスタッフをクルーと呼んでいる）と共に学び・遊ぶ居場所
- ・対象児童：0～6歳の未就学児童と保護者（児童発達支援）、7～18歳の就学児童（放デイ）
- ・開所時間：10：00～13：00（児童発達支援）、14：00～17：00（放デイ）※平日（学校休業期間も含む）
- ・場所：〒170-0002 東京都豊島区巣鴨3-6-12藤ビル2階

ろう児の就学先であるろう学校がすぐそばにあることが強み。学校が終わったら子どもたちは自分の足で気軽に来ることができる。ろう学校周辺に住む人々は昔から手話やろう児、者に見慣れており、ごく自然にあ〜とん塾の存在を受けいれてくれる。

●やはり必要な場所だった！

オープン直後、ろう学校の親子の間で瞬く間に話題となり、あっという間に定員に達した。更に児童発達支援（未就学児童）の方も各方面の保護者から問い合わせが殺到している状態。この業界で定員割れが続出する中、あ〜とん塾の反響をみると、このような居場所を求めている親子がたくさんいることが分かった。

月間契約数の推移



● あ〜とん塾の特徴

- 当事者・児が主役！

クルーは全員が手話者（手話を日常言語にしている人々）であり、管理者は当事者であるろう者が務める。ろう児の居場所とはすなわち「ろうコミュニティ」の創設であり、それは当事者の手でしか築けない。だからこそ「当事者が主役」にこだわりをもっている。

- 我々の連絡手段

きこえる人々（聴者）は外部への主な連絡手段は電話だろう。一方我々、ろう者はメールに加えて「電話リレーサービス」を利用する。手話者である我々と、手話を知らない非手話者を画面の向こうの手話通訳者が繋いでくれる。このシステムのおかげで行政や保護者への連絡はとてもスムーズになる。<http://trs-nippon.jp/>(日本財団電話リレーサービス)

- ロールモデルと出会う意味

ろう児のロールモデル（目指すべき将来像）は、ろうとして手話者としてイキイキと生きているろう当事者である。子ども期にろうとしてのアイデンティティ・自信を十分に身につけるにはロールモデルの存在が欠かせないが、日常の中で彼らと出会える機会は滅多にない。ひと昔前は「大人になったら死んじゃうの？」と嘆く聴覚障害児がたくさんいた。それは自分と同じ存在の大人・ロールモデルと出会う機会がなかったので生きる見通し、大人になった自分にイメージが持てずにいるからだ。

あ〜とん塾では大人のろう者が当たり前において、手話者として自分らしく仕事をしている姿、すなわちロールモデルを積極的に子どもたち・保護者に見せている。そうした大人を見ることで子どもは自分の将来に希望を、保護者は我が子の将来に見通しが持てる。目標、憧れが見えてくると自分の立ち位置がはっきりとしてくるので、本当に必要な選択肢が見えてきて、自然と楽しい日々が送れるのだ。

- 公用語は手話

同法人の中にあるスープカフェ事業である-Social Café- Sign with Me (<http://signwithme.in/>)と同様、あ〜とん塾でも公用語は手話である。子どもたちも（音声を活用する子どももいるが）基本は「手話で生きる」をコンセプトにしている。雑談も、会議も、外部対応など、大人が手話で対話する姿を見せ続ける。

当初は音声を多用する子どももいたが、最近ではろう独自の手話を獲得しつつあり、ろうとしての意識も目覚め始めている様子だ。

これまできこえる子どもの学習塾に通っていた子どももあ〜とん塾を利用している。わからない問題を手話で解説し、手話で意見できる学習環境はろう児にとって最も効率が良い。意見を交わし合うディスカッションの機会も設けて子ども同士が考え、発信できる時間も積極的に作っている。



● 非手話者との関わり

ろう学校もあ〜とん塾も、手話で自由にコミュニケーションが取れるろう児にとって天国のような場所。しかし、一歩外に出れば聴者社会で、手話を通じる相手はごく僅か。だから手話という言葉、ろうとしてのアイデンティティは大前提だが、それだけでなく「手話以外のコミュニケーション手段」「非手話者との関わり」も同時に大切にしている。

時にあ〜とん塾を飛び出して、地域のお店で買い物体験や、手話ができないゲストを招いて交流する企画も実施している。手話ではない別の方法（筆談、ジェスチャーなど）で気持ちを伝えようと子どもたちは柔軟に対応できるようになってきている。時に手話がわからない大人を相手に堂々と手話を指導する場面も出てきている。

こうした活動を通して「相手が誰であろうと関わろうとする心」が芽生えているようで嬉しい。



● -Social Café- Sign with Meとのコラボ

「一般社団法人ありがとうの種」の中で様々な法人内でのコラボ企画を検討している。

先日の新年会は施設外活動としてSign with Meで実施した。公用語が手話のカフェなので、注文、接客等全て手話者が対応。自分と同じろう者がイキイキと働いている。なかなか出会えないロールモデルだ。

一般的に我が子が手話で生きることを心配する保護者もいるが、こうした場所でロールモデルを見て、またキラキラと手話で話す我が子を見ると安心できるそうだ。今後は、Sign with Meでの職場体験企画も検討している。



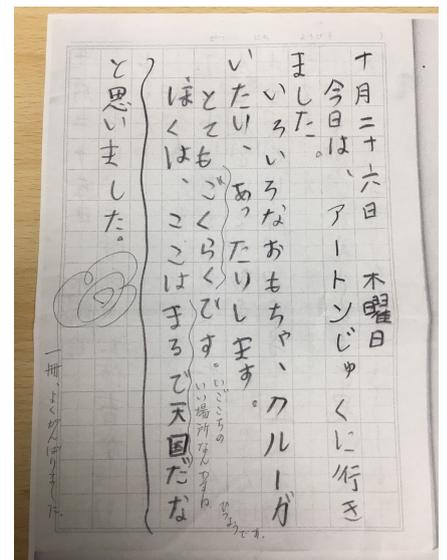
● 利用する親子の変化

・「あ〜とん塾は楽しすぎる！まるで天国！」

あ〜とん塾を利用する小学部からの手紙。これまで放課後に過ごす居場所がなく、また利用したとしても音声メインの場所だったため心苦しい思いをしてきたよう。しかし、あ〜とん塾ではろうとして自分らしくいられる。そんな心地よさを感じているようで本当に嬉しい。

・「手話として生きる道もあるんだ！ってすごく安心した」

児童発達支援を利用する保護者からの声。これまで手話がない音声メインの学校で過ごしてきたので選択肢は「聴覚を活用して聴者の中で生きること」のみだったそう。しかし、あ〜とん塾でろうの大人や手話と出会えて今まで出会えていなかった選択肢を手に入れたよう。各家庭に一番ふさわしい道を歩んでほしい。



●今後に向けて

あ〜とん塾はこれからも様々な企画を実施して活動の範囲を広げ、ろう児たちの経験をもっと豊かに、心に残る時間を提供していきたい。同時に学習面でもろう学校や学習塾などと連携して、あらゆるフォローを強化していきたい。

前例がない取り組みでノウハウ確立に努める毎日だが、子どもだけでなく我々クルーも確実に成長している。ニーズがあるのは確かなので、今後2号所開設に向けてあ〜とん塾の特色とノウハウを見出していきたい。

.....

手話でいきる子どもの児童発達支援・放課後等デイサービス あ〜とん塾
〒170-0002 東京都豊島区巢鴨3-6-12藤ビル2階
TEL&FAX : 03-5980-7140
Mail : artn@artn.jp